



不登校児童生徒への支援

不登校児童生徒に対する支援の心構え

今年度も県内8中学校に校内サポートルームを設置し、不登校生徒等への支援を行っています。昨年度は、サポートルーム利用生徒のうち、自宅から出られなかった生徒が学校に登校できたり、サポートルーム利用を経て教室に復帰できたりするなど、**約52%の不登校の状況が好転する成果**が出ました。

校内サポートルームで支援している登校ナビゲーターの感想の中に、「生徒自身が自己決定し、行動することの大切さを感じた。自分で決めたことならば頑張ることができる生徒も多くいる」とありました。別室に登校する生徒と向き合い、丁寧な支援を行っている登校ナビゲーターの言葉から、先生方は何を感じられるでしょうか。不登校児童生徒に対する心構えといっても、特別なものではありません。

不登校児童生徒への支援の方法や指導に対する心構えは、全ての教育活動に通じ、生かすことができます。

今年度も各校の取組やその成果・課題等の情報をサポートルーム通信等でお知らせいたしますので、各学校での実践の参考にさせていただきたいと思います。

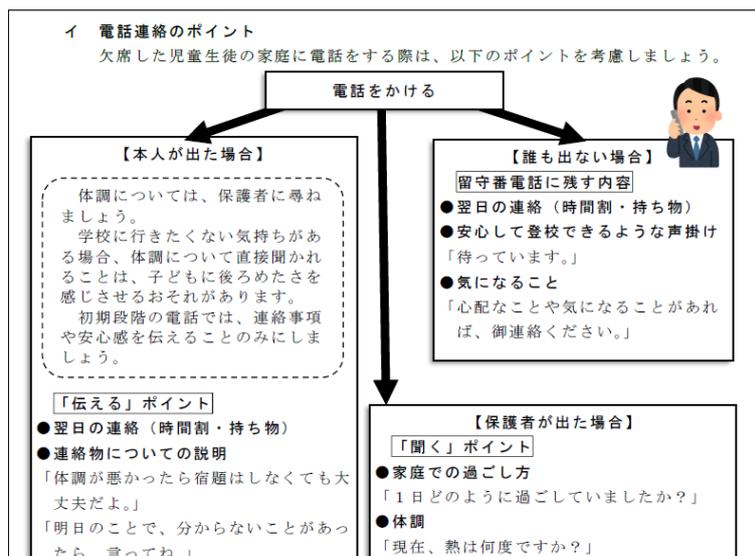
不登校の未然防止と初期対応の手引き

本年4月に本手引きを各学校に配付しました。



活用されているでしょうか。

手引きには、不登校についての適切な理解のための参考資料や、不登校が生じないための魅力ある学校づくりについての考え方、初期対応における組織的な対応の流れ、関係機関の連絡先等、不登校の未然防止・初期対応のための情報を掲載しています。



電話連絡のポイント（一部抜粋）

ここでは、「電話連絡のポイント」の一部を紹介します。不登校初期の段階では、家庭に電話をすることが多いと思います。その際のポイントをフローチャートでまとめ、電話に出た相手に応じた具体的な話し方や留意点を分かりやすく示しています。特に、経験が浅い先生方には参考になると思います。学校全体で組織的な対応ができるように、夏休みの校内研修等で本手引きを活用しながら、全教職員で共通理解を図り、「チーム学校」での取組を充実させていただきたいと思えます。



手引き表紙

手引きは、右のQRコード又は下記URLからダウンロードできます。

<https://ehime-c.esnet.ed.jp/gimu/src/02shidou/06seitoshidou/futoukoutebiki.pdf>



魅力ある学校づくり研修会(不登校の未然防止に向けた研修会)

新たな「不登校」を生み出さないために、学校がまず取り組むべきことは、全ての児童生徒が学校生活を楽しいと感じ、登校したいと思うような、魅力ある学校をつくることです。

どの児童生徒も落ち着ける場所をつくること（居場所づくり）、児童生徒が互いに協力し合いながら活躍できる場面をつくること（絆づくりのための場づくり）が鍵となります。

各学校において、「魅力のある学校、学級とはどのようなものか」を教職員間で話し合いながら共通理解を図った上で、全ての児童生徒にとって、学校や所属する学級が安全・安心な居場所となるような取組を行うことが重要です。

児童生徒が「自分という存在が大事にされている」「学校や学級が居場所になっている」「学校が自分にとって大切な意味のある場になっている」などと実感できる学校づくりを目指しましょう。

今年度は、小・中学校の不登校児童生徒支援に関わる教職員を対象に標題の研修会を実施し、不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりに必要な知識を習得するとともに、フリースクール及び市町教育支援センター（適応指導教室）関係者と連携して講義、研究協議等を行うことにより、各学校における不登校の未然防止及び関係機関と連携した支援の充実を図る予定です。

第1回目は、8月28日（月）、第2回目は、11月13日（月）を予定しています。各学校1名が参加することになっていますので、この研修で得た情報を学校内で共有し、魅力ある学校づくりを「チーム学校」で推進していただくようお願いします。

メタバース上での学び場（メタサポキャンパス）の開設

今年度、不登校支援の新たな拠点として、「県教育支援センター（メタサポセンター）」を設置しました。新たな取組の一つとして、メタバース(仮想空間)上の学びの場である「メタサポキャンパス」を開設し、2名の担当スタッフにより、不登校生徒との「つながり」をつくる場を設けるとともに、個々の状況に応じた学習の機会を保障し、社会的自立に向けた支援の充実を図っています。

利用した生徒からは「リアルな感じが楽しかった。これならできそう。」との感想があり、今まで「つながり」を持てなかった生徒に対する支援の可能性が見えてきています。



不登校対策について、学校に登校するという形や結果にこだわるのではなく、子供たちが社会的に自立するための進路の選択肢を広げることに重きを置きながら、引き続き、個々のケースに応じて子供たちが必要とする支援の充実に努めていきたいと思えます。

子供たちが、夏休みの生活を充実させ、新学期に新たな気持ちでスムーズなスタートが切れるよう、各学校において準備をお願いします。

登校することのみを目標とするのではなく、社会的に自立することを目指す



不登校児童生徒への支援においては、学校に登校するという結果のみを目標とするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉え、社会的自立を目指せるように支援を行うことが求められます。ここで言う社会的自立は、依存しないことや支援を受けないということではなく、適切に他者に依存したり、自らが必要な支援を求めたりしながら、社会の中で自己実現していくという意味です。